



地道な活動を大きく広げる 研究会代表者会開催

「製造業界では、RoHS指令をはじめとする、有害物質の規制などがスタートし、各方面で対応に苦慮しています。一方国内では省エネ法が改正され、省エネ改善の企業努力が問われるなど、環境問題は一層身近になってきました。ガソリンの高騰、異常気象など大きな問題が山積しています。それに比べて私たちの存在・活動は小さいかもしれませんが、けれども地道な活動が、大きな広がりとなることを期待しています」。



9月6日(水)飯田市公民館を会場に、地域ぐるみ環境ISO研究会事業所代表者全体会が行われました。冒頭は研究会、萩本範文代表のあいさつです。

南信州いむす21 新システムの課題を検証

南信州いむす21の制度改正を受けて、24の事業所が新たなシステムで登録。審査の過程で新システムの課題が明らかになってきました。システム構築の中心となったグレードアップPJのメンバーに有志を加え、システムをメンテナンスするための検討PJを進めることになりました。第1回は9月14日(木)午後3時から、りんご庁舎で開催します。参加希望者は事務局までお申し出ください。

経営に役立つ環境監査 研修会を行います

南信州いむす21の審査員としての力量アップと、自社のEMSの取り組み強化につなげることを目的に、研修会を行います。9月29日(金)午後1時～5時。会場は飯田信用金庫本店新社屋。講師はLMJジャパン主席講師の齋藤喜孝氏。テーマは「経営に役立つ環境監査」。南信州いむす21に取り組む事業所、その他関心のある方はどなたでも参加できます。

エコドライブ推進月間と 生活と環境まつりに参加

5月に続き、10月にエコドライブ推進月間に取り組みます。今回は家族にまで取り組みを広げて実施。研究会に加入するすべての事業所で取り組むことが確認されました。

10月28日(土)、29日(日)生活と環境まつりが行われます。今年も研究会は参

加します。参加の内容は昨年に引き続き、間伐材や木の実を使ったクラフト細工のコーナーが中心。10月14日(土)には、まつりで使う間伐材の切り出し作業を行う予定です。あわせて各事業所ごとに、どんぐりなどの木の実集めをお願いすることになりました。

参加事業所のEMSのレベルアップに向けた論議を

「南信州いむす21の普及の取り組みを通して、地域の底辺拡大に一定の役割を果たしてきました。一方研究会の当初の理念は、それぞれの参加事業所がよりレベルの高いEMSに取り組むための挑戦にありました。研究会に参加する事業所が、改めて当初の理念に基づいたレベルアップを実現するための情報、スキルの共有や相互研鑽の方法など、実務者を中心に論議を進めていただきたい」。萩本代表の発言です。

研究会の体制整備も

これまで研究会は代表のみが役員という体制でした。組織や活動の広がりをもたせ、2名の副代表を置くことや、審査料収入が生まれたことから会計、監事の設置など組織を見直すことも提案されました。

官民パートナーシップの モデルとして

「南信州いむす21のシステムをグレードアップする取り組みが、各事業所にとってのマンネリ打破のきっかけになるのではないかと期待しています。環境首都を目指す取り組みを通して、新城市や安城市と交流する機会がありました。飯田市の強みは何よりも官民のパートナーシップの存在といわれます。これも研究会の存在あってこそ。研究会の活動と官民のパートナーシップが一層高まることを期待します」。牧野飯田市長によるまとめのことばです。



取り組み事業所の近況

研究会参加事業所の取り組み近況は以下の通りです。

エコファンドなどの取り組みに力を入れる。新社屋に環境配慮を目的に5,200万円投資/飯田信用金庫ELV対応が課題。省エネコンプレッサーの導入で大きな省エネ効果あり/オムロン飯田 環境配慮型のものづくりを進めている/シチズン平和時計

EMSを発電効率の向上や原子力発電の活用、オール電化などの本来業務に結びつけた取り組みに/中部電力 環境会計を導入。ソーラーシステム導入も計画/八十二銀行 紙ゴミ電気から脱却し、地域貢献に取り組みたい/東日本システム建設 JAMA(日本自動車工業界)のVOC(揮発性有機化合物)対策に苦慮、作業環境の改善を進めている/盟和産業 ペットボトルの扱いは昨年比50%増。法順守を含めたりスクマネジメントを強化したい/アースグリーンマネジメント 環境目標をより業務内容に即したものに。見直し中。社員の提案で電動バイクの試乗に取り組み/神稲建設 法令順守を見直した。JR川路駅前の美化活動を進めている/夏目光学 有益な環境側面を重視していきたい。研究会での情報交換が貴重な情報源/南信共同アスコン TDK全体でEMSの統合を図っている。本来業務に添った取り組み、プラス側面の活動に力を入れたい/TDK飯田 品質との一体化を進めている。再資源化率は96%を達成/化成工業 ISO14001の更新をせず南信州いむす21に切り替える/飯田商工会議所。外断熱工法や雨水利用などを商品として提案。りんご並木の清掃活動を実行/吉川建設 太陽光パネル1億枚突破。33万5千KW相当。換気扇で業界最高率のモータを開発。最大で消費電力30%削減効果/三菱電機 RoHS指令には2年前より対応。有害物質のDB作成。顧客には不使用保証書で対応/多摩川精機 省エネ、省資源、リサイクルなど環境に配慮した設計を提案/トーエネック 南信州いむす21の手引き書を参考に、自社のシステムの有効性を見直す/木下建設 営業車を普通車から軽自動車に、スクータを購入し、近隣の移動に使用/井坪設備工業 昨年までに土壤汚染対策を完了し、今年からは臭気と油煙対策に取り組む/アイエス精工 中央図書館でビジネス支援を開始。7、8月には相互内部監査を実施/飯田市役所。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



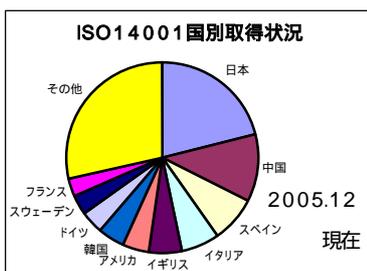
EMSを広げるために JAB/ISO14001研究会 に参加しました

JAB = 財団法人日本適合性認定協会は、環境マネジメントシステム審査登録制度の発足10年を総括し、今後の発展を展望する「JAB/ISO 14001研究会」を組織。各界からの参加者で検討を始めました。「WG1: 効率的なシステムづくり～中小組織(企業)への普及のために」「WG2: ISO14001の効果的活用と審査のあり方～環境パフォーマンスを改善し、社会の信頼に応えるために」「WG3: 設計段階から環境負荷を配慮した製品を実現するためには」。3つのワーキンググループに分かれた検討が始められました。

地域独自のEMS南信州 いむす21に取り組む地域ぐるみ環境ISO研究会の一員として、WG1に参加することとなりました。9月6日(水)第1回の会議から、事務局員の木下が参加しています。以下会議の報告と感想です。

EMS中小企業への広がり は国際的な課題

EMSの国際規格ISO14001が誕生して10年がたちました。2005年12月現在の認証取得組織は111,162件。国別で日本は第1位の23,446件。第2位



中国の12,683件を大きく引き離しています。(数値はJAB、HPより)

国際的に認められたEMSにはISO14001とEMASがあります。EMASはヨーロッパを圏域としたEMS。EMS先進地域といわれるEU諸国でもこれらEMSの認証を受けた組織は全体の0.5%。特にSME(Small and medium-sized Enterprise)といわれる中小企業への広がりが課題といわれています。

中小企業にとってISO14001に取り組むためには、費用とシステム作りに要する手間が大きなハードルといわれています。これは日本だけでなく、EMS先進国であるEU諸国にも共通しています。

多様なEMSの取り組み

いうまでもなくEMSは、地球温暖化に象徴される地球環境問題を、組織的な取り組みを通して解決するために生み出したしくみです。その意味であらゆる組織にこの取り組みを広げていくことは大きな課題です。

国内では、ISO14001とは別の簡易なEMSをつくることで、多くの組織に広げる試みが生まれています。環境省によるエコアクション21。大手民間企業のネットワークによるエコステージ。KES、みちのくEMSなどが全国に広がっています。

地域全体をサイトとした 南信州と水俣のEMS

これとは別に地域版のEMSも生まれていますが、多くは地方自治体によってつくられたものです。

EMSの地域展開で知られる水俣市。家庭版、学校版、保育園版、お店版、旅館・ホテル版、畜産版など多様なEMSを、市民の発意で、水俣市が提供しています。

その中で南信州 いむす21は、地域ぐるみ環境ISO研究会という、地域の事業所ネットワークである地域ぐるみ環境ISO研究会が作り上げ、南信州地域に広げていこうというローカルな取り組みがユニークで、全国的に注目されています。

飯田市と水俣市、共通するのは行政だけの取り組みにとどまらず、地域を巻き込んだ取り組みであること。

これらは地域全体を一つのサイトとしたEMSの取り組みといえるかもしれません。

EMS国際版 ISO14005を策定中

一方国際的にも中小企業にEMSを普及させる試みとして、国際規格ISO14005を制定する動きが始まりました。ISO14005は、5つのモジュールで構成され、簡易なEMSとしての取り組みと、14001にステップアップしていく取り組みの、両方が選択できるようにしくみが検討されています。2008年発行予定。小規模事業所



が国際的に認められたEMSに取り組むきっかけとしてぜひ注目していきたい動きです。

地球益と企業益の”両立” EMSを広げるために

EMSの取り組みを広げるために、グリーン調達、入札条件、減税、助成金、学習会など公共機関などの多彩な支援も行われるようになってきました。中小企業がEMSに積極的に取り組むためには何よりも、EMSの取り組みが企業益にも結びつくことも必要です。

EMSを取得することを目的とするのではなく、経営改善の手法としてEMSを活かす。実のある取り組みを維持向上することが、EMSの信用や必要に結びつき、EMSの底辺を拡大します。

地球益と企業益の”向上” EMSを高めるために

9月6日(水)に行われた地域ぐるみ環境ISO研究会。「研究会では、南信州 いむす21を通して、多くの事業所がEMSに取り組む仕組みを作ってきました。研究会設立当初の目的は、参加事業所それぞれが、より深いEMSの取り組みに挑戦していくことにもあります」。地域ぐるみ環境ISO研究会、萩本代表の発言です。取り組んでいる組織の活動を高めていくことが必要です。

いわゆる「紙ゴミ電気」から「本来業務」へ。研究会に参加する各事業所も、試行錯誤中。どのようにしたら実をあげることができるかも課題です。

グローバルな動きを ローカルにつなげたい

JAB/ISO14001研究会は、世界や国内EMSの最新の動向とつながるチャンスです。南信州のローカルな取り組みが、グローバルな動きとつながり、研究会に参加する事業所のパフォーマンス向上に結びつく。南信州 いむす21のシステムがブラッシュアップされて、より多くの組織に広がっていく。そんな取り組みの一助となるよう、会議の成果を研究会全体で共有していきたいと考えています。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川(株) 研究会事務局)
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



「経営に役立つ環境監査」 研修会を行います 講師は齋藤喜孝さんです

「環境マネジメントシステムに取り組み始めたけれど、会社の経営に結びついた取り組みにつながらない」「エコオフィスの取り組みで経費節減につながったけれど、3年たってみるとそろそろ頭打ち」。EMSに取り組む、多くの事業所に共通する悩みようです。



「EMS高成熟度指標」。EMSの取り組みが会社の経営改善に積極的に結びつけるための評価指標です。「...今回作成した評価指標は、システム項目とパフォーマンス項目で構成されています。...システム項目は、ISO14001の要求事項に対応しています。...『こんなものが用意されていますか』など確認できる内容です。一方パフォーマンス項目は、たとえば『手順はありますか』などと単にその有無を問うような内容ではなく、手順であればその中味が要求事項に比べ、どのレベルになっているか、環境影響であれば、有害な影響と有益な影響がありますが、それらを的確に捉えているか、...ESMが本業とリンクした形になっているか、こういった視点から考えています。...」(月刊アイソス10月号より)

研修会「経営に役立つ環境経営」を行います。9月29日(金)午後1時30分から午後5時まで。飯田信用金庫新社屋。地域ぐるみ環境ISO研究会主催。

講師はLMJジャパンのアソシエイト/主席講師の齋藤喜孝さんです。冒頭の「高成熟度指標」は、齋藤さんへのインタビューです。齋藤さんは、日本(JAB)のEMS適合性認定の制度立ち上げ/発足に深く関与。JAB認定第1号の審査員です。

参加対象は、地域ぐるみ環境ISO研究会メンバーの内部監査員、組織員。南信州 いむす21登録又は取り組み宣言組織の皆さんなど。相互内部監査経験者の立場でもぜひご参加ください。資料代300円が必要です。当日ご持参ください。事前申し込みも必要です。22日(金)までに研究会事務局に申し込みください。

EMSの取り組みを経営改善につなげるための、ヒントをつかむ機会として多くの皆さんの参加をお待ちします。

南信州 いむす21 ブラッシュアップPJを 行いました

「登録審査にあたり、手引きの通りの取り組みが行われていない場合、是正の必要を伝えたり、それが改善の取り組みにつながっているか、フォローのしくみが必要です」「審査の結果、南信州 いむす21の規格に適合しているかどうか、判断の基準を明確にすることが必要です」。

8月31日(木)、新システムとなって初めての南信州 いむす21登録証の交付が行われました。内訳は、継続登録が23、新規が1事業所。研究会実務者のほとんどが審査にあたる機会となりました。冒頭は8月25日(金)に行われた実務者会、審査の総括の中で交わされた発言です。

9月14日(木)、南信州 いむす21ブラッシュアップPJが行われました。南信州 いむす21グレードアップ版PJに、南信州広域連合事務局と、実務者有志が参加。



「審査対象となった事業所の課題」「審査側である研究会の課題。大きく分けて2つの課題が話し合われました」。

「EMS運用の柱ともいえる『環境側面の抽出から目的目標への展開』の理解が不足」という課題にたいする提案。「支援の立場で研究会メンバーが審査以前に事業所の相談に応じる」「例示や様式を用意する」「定期的にEMSセミナーなどの研修会を開く」など。

冒頭の課題にたいする提案。「南信州広域連合に提出する審査結果報告書を審査対象事業所にも同様に報告することをルールとする」「チェック項目を x の3段階に評価し、x はチェックリストに説明を加える」「x となった項目は、審査対象事業所にたいして改善を求め、改善が認められたことを適合の条件とする」など。

グレードアップされた南信州 いむす21。事業所の取り組みが継続的に改善されるとともに、システム自身の継続的改善も必要です。ブラッシュアップPJを通して、課題とその解決策を整理していきます。今後のPJにも多くの関係者の参加をお待ちしています。

家族にも広げたい エコドライブ 10月は推進月間です

38事業所1,426人参加。CO2換算18.7t削減効果(05年10月「ノーマイカー通勤推進月間」)。98事業所6,193人参加。CO2換算60t削減効果(06年5月「エコドライブ推進月間」)。

10月1日から31日にかけて、エコドライブ推進月間を行います。前回5月は通勤以外のエコドライブに取り組みの「中味」を拡大。今回は参加事業所家族まで「対象」を拡大して行います。

家族で参加する場合は、「わが家のエコドライブカレンダー」を使います。



「アイドリングストップ」「急発進・急加速を行わない運転」「余分な荷物を積まない」「タイヤの空気圧を適正に」「車を使うときは計画的に最短コースで」など、楽しみながらエコドライブのアイデアを出し合っ取り組みませんか。

今回は社有車だけでなくマイカーにもつけられるステッカーを用意しています。



南信州全域で地域をあげたエコドライブの取り組み。事業所単位だけでなく、個人や家族単位の参加も大歓迎。多くの皆さんの参加、お待ちしております。詳しくは市役所産業振興支援室まで。Tel22-4511。

e-mailiimachi@city.iida.nagano.jp

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川清掃機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



自治体EMSのゆくえ ABNステーションで報道

「省エネ省資源、エコオフィスの取り組みの成果はあがっています。費用のかかるISO14001に取り組むを返上し、組織独自の環境改善活動を進めることとしました」(ISO14001を返上した諏訪市役所担当者)

9月13日(金)夕方のABNステーションで、県内自治体のISO14001をめぐる動きが紹介されました。

特集では諏訪市に加え、ISO14001からエコアクション21へ移行予定の長野県、自己適合宣言を行った飯田市が紹介されました。

費用や取得にかかる経費が高いハードルとなり、中小企業を中心に、EMSに取り組む事業所の動きに変化が見られます。一方コストパフォーマンスの見えにくい地方自治体は、行財政改革と結びついた変化です。

長野県はエコアクション21を率先して広げる立場からの移行。県税である法人事業税の減免によって取り組み事業所の増をねらっています。

2003年1月にISO14001の自己適合宣言を行った飯田市。透明性や客観性を担保するためのしくみの一つ、相互内部監査の取材を受けました。庶務課長にたいする監査には、相互内部監査員として瀬戸市役所とアースグリーンマネジメントも参加。「外部からの参加者を受け入れる相互内部監査には、参加者を惹きつける新たな魅力が必要。常に新たな取り組みを進める姿勢、自己適合宣言は、外部審査以上に大変です」。アースグリーンマネジメント、代田勇さんの発言です。



地球環境問題の解決に向けた行動、ローカルアジェンダ。環境問題の解決に向けて、自治体は大きな責務を担っています。率先垂範のしくみとして、EMSの有効性が試されます。

エコオフィスの取り組みにとどまらず、本来業務に結びつき、さらにパフォーマンスの向上にもつながる。EMSに取り組む自治体の姿勢と、自治体EMSのしくみ、真価が問われているといえそうです。

下草刈りも行います 10月14日(土)は里山作業

密植している林の中では、太陽の光も地面に届かず、若木が育ちません。やせた林は本来の保水機能も低いまま。密植している若木の間伐作業は、人工林を育てるために重要です。

木々の間に生い茂る草や灌木、ササやシダ類などは木が生長するための養分を奪い、健やかな生育を妨げます。下草刈りを行うと、風通しもよくなり、木々の生育条件を高めます。



10月28日(土)、29日(日)に行われる「生活と環境まつり」。地域ぐるみ環境ISO研究会は、今年もクラフト細工で参加します。クラフト細工の材料となる間伐材や木の枝集めを目的に、今年も竜丘財産区が管理する、桐林の里山作業を行います。今回は下草刈り作業も行います。

10月14日(土)午前8時30分から11時頃まで。竜丘桐林、臼井原の里山が会場です。どなたでも参加できます。山に親しみ、いつもとは違った汗をかいてみませんか。

終了後は「焼き肉会」も計画しています。こちらも多く参加者をお待ちしています。

ヘルメット、なた鎌、のこぎりなどは研究会で準備。斜面で作業ができる足元、手袋着用、長袖姿でご参加ください。

参加申し込み、照会は研究会事務局まで。

どんぐりなどの木の実を集めます



もの、大歓迎です。事業所ごとにぜひお取り組みください。

クラフト細工の材料となるどんぐりなどの木の実を集めます。松ぼっくりや栗の実など大きさや形もまちまちなもの。



動けば変わる 環境、平和、冒険 青年たちの熱い取り組み

「ゆいまーるクリーン大作戦」。沖縄といえば、美しい珊瑚礁、豊かな自然。そういうイメージからかけ離れた不法投棄の現場で、全国から集まった青年たちが動き出しました。捨てられるのはゴミだけではなく犬や猫も。ガス室送りになったペットを見て涙する青年たち。不法投棄のゴミにもう一度命を吹き込みリサイクルと、ペットたちの引き取り手を捜すために立ち上がります。

「レインボーマフラ大作戦」。長い戦乱の地、アフガニスタン。乾燥した内陸の地は寒暖の差が激しく、夜は凍えるほど。5人に1人の子どもたちは5才までに死亡。マフラーを編んで届けたい。引っ込み思案で自分に自信のなかった女性の発案。最初はおそろおそろ、けれども動くことで彼女の姿勢や表情がどんどん前向きに。1,500枚のマフラーを集める力につながりました。

「サムライカダ大作戦」。沖縄から鹿児島までの800km。沖縄独特の手こぎ船「サバニ」で1ヶ月をかけて縦断。最初は無謀不可能という周りの声。彼らの熱意と行動が船大工、冒険家、村人たちの支えにむすびつく。目的に向けて取り組む中で、彼らの顔がどんどん変わっていきました。

9月16日(土)午後7時から、上久堅公民館を会場に、ドキュメンタリー映画「107+1天国は自分でつくるもの〜動けば変わる」上映会が行われました。取り組んだのは上久堅の4人の若者たち。会費1,000円の上映会に115人が参加しました。

映画監督のてんつくマンとは、「天国をつくる人」の意。本名軌保博光さん。拠点は香川県小豆島。環境、平和、



国際支援など若者たちをまきこみ、「天国は自分たちでつくるもの」を合い言葉に活動中。上久堅の若者たちから115人の参加者へ熱い思いが伝わりました。久々に熱い思いを感じる機会でした。てんつくマンのHPは以下の通り。 <http://tentsuku.com/>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川川岸緑地) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



より高いレベルの取り組みを事務局会議で検討始まる

「EMSに取り組む事業として、高いレベルの取り組みを進めるための検討を」。9月6日(水)に行われた研究会代表者会の問題提起を受けて、研究会事務局会議が行われました。



4月に南信州いむす21の全面改定を行い、ステップアップのしくみや、ISO14001南信州宣言への道筋をつくることができました。

一方研究会発足当初の目的は、参加事業所同士が共同し、より高いレベルの活動に挑戦することにあります。研究会に参加することで、自社の活動がステップアップする。そのためどのような取り組みを進めていくか。9月21日(木)、事務局をつとめる8社の実務担当者による話し合いが行われました。

まずは情報の共有から

基本的な考え方は、研究会に参加している事業所や実務者にメリットが生まれるような活動であること。

「生ゴミの処理方法に困っている。処理を共同で行えないか」、「割り箸を共同で集めて紙の原料にしたらどうか。事業所を超えた共同の取り組みについて、提案されました。

これまででも、廃棄物の共同処理について検討したことはありましたが、異業種による取り組みは廃棄物の種類や法令の解釈、コストパフォーマンスなど課題も多く、実現に至りません。

共同の前にまずは情報の共有を進めてみようということになりました。「廃棄物の処理」「省エネ活動」「環境法規制」「環境管理システム」「外部監査」具体的な候補です。

「研究会のホームページなどでデータベースとして管理」「テーマ別の掲示板を設け、実務者が入手した情報を互いに書き込みながら最新の動きを把握」。いくつかの提案も行われましたが、共有化の方法について今後詰めていくこととなりました。

事業所共同の取り組みを環境改善の相乗的な動きにつなげる。そのため第一歩が踏み出されました。

ゼロエミと環境配慮工場 オムロン飯田に信州エコ大賞

「グリスのうち固形分は堆肥化し、水分は生物処理後放流」「150品以上の品目の分別方法を示した廃棄物ガイドラインを作成」「消滅型生ゴミ処理機の維持活用」「直接納入者へ梱包材の返却」「部品・製品包装容器の通い箱化」。ゼロエミッションに取り組むオムロン飯田の活動事例です。



9月20日(水)第8回信州エコ大賞の表彰式が行われました。本年度のエコ大賞をオムロン飯田(株)が受賞。研究会に参加する事業所です。ゼロエミッションの取り組みや、環境配慮型、第2工場の設計と維持管理の取り組みなどが同社の受賞理由です。

冒頭はオムロングループ、ゼロエミッションの取り組み事例。04年12月からスタートしたゼロエミッションレベル。実質再資源化率98%以上の目標を、05年7月以降、継続して達成。

「排出者責任の視点から、最終処分場までの情報見える化による業者管理を充実(ゼロエミ達成前段階1)」「100%法を順守した契約の締結及び処分費用の運用(同前段階2)」「目で見て確かめる信頼できる、業者選び(同前段階3)」。最終処分場を含むすべての処分場の現地確認をするなど、段階を踏んだ取り組みの成果です。

「省エネルギー：年間1,959,500kwhの電力削減」「環境：年間1,204,712kgのCO2削減」「長寿命・リサイクル」。04年5月に竣工した第2工場で、設計段階から環境に配慮。大きな省エネ効果を上げています。市天然記念物ギフチョウ保護を目的に窓ガラスには防虫フィルム、周囲の夜間照明は虫が認識できないイエローランプを採用。オンサイト発電機の廃熱を利用した温水/冷水製造のコージェネレーションで、冬季温水のほぼ100%を製造。環境にこだわった様々な取り組みが進められています。

経済と環境の好循環のモデル企業として今後の取り組みが一層期待されます。

一度は泊まってみたい 若女将の宿、吉田屋旅館

1,300年の歴史を持つ湯湯津温泉。鳥根県太田市にあるこの温泉で、若女将たちが活気あふれる活動をしています。そこは創業96年を迎える老舗旅館太田屋。率いるのは若女将の山根多恵さん、25才。大阪からのIターン。旅館の運営には地元の学生たちが多数参加。「地域課題を解決する拠点としての旅館」をテーマに、「若女将塾」を組織。次々とユニークな活動を進めています。若女将塾は学生たちを対象としたインターン制度。旅館の手伝いだけでなく、旅館を拠点とした様々な地域づくりの活動を、参加者自らの発想で起こしていきます。

「竹やぶSOS基金」。手入れが間に合わず繁茂する竹やぶ問題は、どの地域にも共通の悩み。SOSに応じて学生たちが伐採作業。

「もったいない運送」。いらないものだけれど、捨ててしまうのはもったいない。別の場所に移せば役立つはず。2週に一度、トラックを走らせ、リサイクルできるものを各地に届ける。不用品を運送し、有効活用する活動。

「子どもインターン」。旅館体験。竹伐採体験。農家取材。海の仕事体験。夏休みを利用して小中学生を対象にした「13才のお仕事体験ハローワーク」。

地域づくりの活動と両立させるため、旅館の営業日は週末3日間のみという思い切った決断。けれども地域づくりの活動との相乗効果で売り上げは前年比2.5倍に。

田舎暮らしはカッコいい。そんな新しい価値のライフスタイルを田舎から都会に提案中。自分たちも学びお客さんも学ぶ。「とき」と「価値」をつくることを楽しむ、新しい日本旅館のあり方を目指しています。(Press Alternative 2006.9月号より)吉田屋旅館のHPは以下の通り。

<http://www.lets.gr.jp/yoshidaya/#kayak>



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川川岸緑地) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



経営に役立つ環境監査 齋藤喜孝さんを講師に

「相手の思いを引き出すような監査が理想です。自分の考えを押しつけない。そのためには監査をする私たちが、臨機応変に応じることができると、たくさんの引き出しをもつことが大切です」。



9月29日(金)、飯田信用金庫本店新社屋を会場に、「環境監査員セミナー『経営に役立つ環境監査』」が行われました。研修会には25事業所から42人が参加。主催は地域ぐるみ環境ISO研究会です。

冒頭は研修会講師、齋藤喜孝さんの言葉です。齋藤さんはLMJジャパンのアソシエイト/主席講師。日本(JAB)のEMS適合性認定の制度立ち上げ発足に深く関与。トヨタ自動車や新日本製鉄などのEMSの立ち上げ監査にも関わりました。

組織の サンダース軍曹は誰？

現場のキーマン「サンダース軍曹」を見つける。そしてキーマンがどのように環境マネジメントシステムを理解しているか、どのようにしたらシステムの理解を深められるか絞り込むことも大事です。「あなたの組織の著しい環境側面は何ですか?」。そこから目的目標、運用管理、監視及び測定といったつながりで聞きだしていく方法は有効です。

究極の監査とは、自ら不適合を告白すること？

監査にあたり、まず監査員自身が、被監査組織の課題や気づいてほしいことを念頭に入れておく。そして相手の話しぶりを観察しながらEMSの機能や効果を聞きだします。

監査を通して被監査の相手自らがシステムの不適合を見つけだし告白する。それが究極の監査といえるかもしれません。



私がこの仕事に 明日から就けるでしょうか

組織のことを知らない自分が、その仕事に取り組むことはできるだろうか。そんな視点をもって監査に臨む。組織のEMSのしくみが活かしているか、監査員、被監査者それぞれが気づくための、柔らかな切り口となります。「今、ボールペンが必要になったらどうするの? (グリーン購入の手順の確認)」「この温度計がレッドゾーンを超えたらどうするの?」。業務内容から踏み込むことは、環境側面の妥当性を判断するのに有効です。

監査は寸止め

「正論、必ずしも正しからず」「押しで引く」「必ず退路を残す」。伝えたいことを相手が理解したと思ったところで引く。そのためには常に相手に合わせた監査を心がける。逃げ場のない監査は、被監査員にとって監査自体を否定することにもつながりかねません。

監査のきっかけは パフォーマンス

監査の現場で黒い煙が発生していたとします。黒い煙の発生を環境側面として特定しているか(4.3.1)。特定しているとすれば対処の手順書を作成しているか(4.4.6a)。手順書があればその運用基準は適切か(4.4.6b)。適切であれば手順通りに実行しているか(4.4.6a, b)。パフォーマンスをきっかけにどの段階がシステム上問題なのかを明確にすることも大切です。

監査のリズムを大切に

質問する側の監査員が聞いた答えを、自分だけで納得するのではなく、相手の応えに必ず相づちを返すことも大切です。手順書を読む、指摘を書くなど空白の時間をできるだけつくり、次の質問に展開する。監査のリズムも大切です。

監査とは教育？

「相手のために必要であれば教育的に接する。しかし押しつけでなく相手の納得を待つ姿勢で臨む。最終の決定はあくまで相手側」。ISO14001規格に適合しているかどうかを超えた監査を目指したい。

監査員が被監査員やその組織に取り組んでほしいことを「監査」という手段を通して伝えていく。相手自らが

必要なことに気づき、次の取り組みにつなげていく。

その意味で監査とは、監査員による被監査者にたいする教育といえるかもしれません。

まずは 必要な知識の習得から

「監査員はヤクルトの古田のように、全方位に目を配り、全体の状況を把握する。自分がサインを出さなければチームも相手も動かない」「監査は、監査員自身と経営トップの思想を伝えるもの。監査員自身他人に負けないもの(思想)を持つことも必要」。わかりやすい事例を引き合いに、監査のための様々な気づきをいただきました。

「環境関連法令をどこまで把握しておくことが必要か、いわゆる罰則規定を持つ法に限っても良いか」「被監査側の立場で、監査員としての力量が疑われるとき、どのように対処したらよいか」「監査の際に、不適合だけでなく、監査対象組織の長所を指摘してもよいか」フロアからも熱心な質問が飛び交いました。



たゆまぬ研鑽を

「ISO14001の知識」「EMSの知識」「被監査組織の知識」「時の話題」。監査員の力量にはそれらの知識を持つことは必須。質問の仕方、引き出し方という監査技術を磨く一方で、たゆまぬ自己研鑽は欠かせません。

自社のEMSの取り組み向上。EMSの取り組みを通じた自社の業務改善。そして研究会の一員として取り組む

南信州 いむす21

の監査を通した、被監査事業所の取り組み向上のために。今回の研修をきっかけとして参加者一人ひとりの力量の向上が期待されます。



新装間もない本社新社屋を今回の研修会に提供いただきました飯田信用金庫の皆様へ感謝申し上げます。

本文中の言葉のうち審査=第3者監査に該当する部分も広義に監査という言葉にとらえ、置き換えてあります。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川環境機) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



今年も研究会が参加します 生活と環境まつり

10月28日(土)、29日(日)鼎文化センター・鼎体育館を会場に「生活と環境まつり2006」が行われます。

「土づくり・野菜づくり講習会」「ガーデニング講座」「犬のしつけ方教室」「骨年齢の測定」「フリーマーケット・バザー」など、環境や生活に関わる盛り沢山の催しが行われます。

地域ぐるみ環境ISO研究会では今年も「どんぐりと間伐材でクラフト細工」のコーナーを設けます。開催時間は28日(土)は10:00～16:00、29日(日)は9:30～15:00です。

世界一受けたい授業の 山本良一さんも講師に

28日(土)午後1時30分からは鼎文化センターホールを会場に、東京大学生産技術研究所教授、山本良一さんの講演会が行われます。テーマは「気候変動+2の世界」。



20世紀、地球の平均気温は+0.6上昇。世界各地で発生している異常気象や災害は、温暖化が原因ともいわれています。地球温暖化の原因となるCO2など地球温暖化ガスは増え続けています。私たちや私たちの子孫が幸せに暮らし続けていく、持続可能な社会をつくるためには、温暖化防止の取り組みは重要です。

講師の山本さんは日本テレビ「世界一受けたい授業」にも登場。「気候変動+2」「1秒の世界」「世界を変えるお金の使い方」などの著書があります。

後藤道夫さんの 理科実験ミュージアムも

おもしろ科学工房の後藤道夫さんによる「出張理科実験ミュージアム」も行われます。28日(土)「ふうせんおぼけをつくろう」。29日(日)は「自動水や植木鉢をつくろう」。両日とも10時と13時の2回開催。イタチガ沢最終処分場に持ち込まれたけれど再利用のできるものを配布するリサイクルイタチは28日(土)13時から。28日(土)10:00からは図書館で不要になった本を希望者に無料で配布。環境や暮らしについて考える機会としてみませんか。

フォーラムのご案内 グリーン経済のさらなる探求

持続可能な地域社会。人類存続の鍵を握る視点です。持続可能な社会とは「環境」「経済」「人間・社会」のバランスがとれた社会。そういう社会をつくるには、環境問題を環境問題だけでなく、経済活動そのものを、環境や人間社会と調和するものにしていく必要があります。

NPO法人「環境文明21」は、そういう経済活動をグリーン経済と名づけ、社会全体の経済活動をグリーン経済化するための研究や実践、提言を進めています。環境文明21の代表、加藤三郎さんは、環境省の初代地球環境部長。第1回の地球サミットでは、日本政府の中心として活躍。



環境文明21が主催する全国交流会、「グリーン経済のさらなる探求」が行われます。グリーン経済を実現するための先進的な取り組みの紹介や、これからの取り組みにたいする意見交換を行います。「学ぶ/育てる」「食糧生産とバイオマスエネルギー」など、関心のあるテーマをもった参加者を募集中。

10月14日(土)13時30分から(17時終了予定)。会場は中央大学駿河台記念館280号室。会員は無料、会員以外は1,000円の参加費が必要です。申し込みはTEL：03-5483-8455 FAX：03-5483-8755 E-Mail：goto@kanbun.orgまで。

砂漠リアルタイムカレンダー を見つけました

熱帯雨林の回復速度を超えた焼き畑農業。地球温暖化による植生の変化。1年に九州と同じ面積が砂漠化されているといわれています。そんな砂漠化の面積がリアルタイムで表示されたホームページを見つけました。現代世界の砂漠化現象には、私たち人類の関わりが大きいといわれています。ホームページを通して砂漠化問題を実感してみませんか。



<http://www.tottorisakyu.jp/kyou/real/>

あなたも観戦しませんか 実業団サイクルロードレース

10月15日(日)飯田市龍江、千代地区で実業団サイクルロードレースが行われます。個人の技術やレベルから、男子のBR-1、BR-2、BR-3と女子の部にわかれ、BR-1は約11.5kmの周回コースを10周します。

今年から「サイクルロードレース・ジャパン2006」という年間シリーズ戦が行われています。年間12戦行われるレースのうち飯田で行われるBR-1が最終戦。年間王者が決定します。今年5月に行われたツアーオブジャパンに出場した選手も参加。国内一流の選手たちの戦いも観戦できます。

BR-1 / BR-2は9:30から13:20。BR-2 / 女子は13:20から16:00。スタート・フィニッシュは今田平多目的広場。エコドライブ推進月間の10月。JRを使って観戦にしてみませんか。詳しくは以下HP参照のこと。

<http://www.city.iida.nagano.jp/ecotour/jitu/index.htm>

スハマソウの移植が 行われます

別名ユキワリグサ。ミスミソウの一種。葉の形が「州浜」の紋所に似ていることから名づけられたという節もあります。



千代毛呂窪に建設が進められている新最終処分場の予定地に自生している「スハマソウ」。「レッドデータブック～日本で絶滅のおそれのある野生生物」で準絶滅危惧種に指定されています。

10月30日(月)、スハマソウの移植が行われます。千代自治協議会、千代公民館、千代・千栄小学校、毛呂窪区、伊那谷自然友の会、飯田市、処分場建設業者の共同主催。小学4年生の総合学習としての取り組みでもあります。9:00に千栄小学校に集合。事前学習会のあと現地へ行き、移植作業が行われます。

ボランティア参加も募集していません。興味・関心のある方は、千代公民館 (tel59-2003)、市役所環境課 (tel22-6344)まで連絡のこと。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川環境機構) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



今年も行いました 研究会の里山作業

10月14日(土)竜丘桐林の里山で山作業を行いました。研究会としては今回が3度目。竜丘地区財産区の皆さんにご協力いただきました。

作業の中心は下草刈り。植林した樹木の生育を妨げる、草本、灌木、ササ、シダなどを刈り取る作業です。通常は草木の成長が著しい7月頃までに行うこととされています。



日本を含め、アジアモンスーン気候の地域では、植林した樹木が一定の大きさに成長する6年~8年まで必要とされています。欧米に比べ、この下草刈りに手間のかかることが、日本の林業の課題ともいわれます。

竜丘桐林、竜丘財産区の里山は、地域のボランティアの育成などにも取り組むことで、間伐はほぼ完了。下草刈りも順調に進んでいます。3回目となる地域ぐるみ環境 ISO 研究会の活動も、里山保全に少し貢献できました。

作業後半は間伐作業と、クラフト細工に向けた材料づくり。秋も深まり涼しくなってきましたが、13人の参加者は、なれない?肉体力労働で汗びっしょりとなりました。

皆で参加しましょう クラフトづくり

木の実集めも順調です。10月28日(土)29日(日)に鼎体育館、文化センターで行われる生活と環境まつり。研究会が主催するクラフト細工コーナー。準備も順調に進んでいます。

間伐材や木の実などを使った工作は、学生時代に図工の苦手だった人でも意外なセンスが発揮されます。子どもにとっては自然にふれあう貴重な機会。家族の関係づくりにも最適です。

他にも盛り沢山の催しが計画されています。ご家族、親子、お友だち同士など、お誘い合せてぜひご参加ください。

「ISO14001 自己適合宣言をどのように行ったらよいか」本の紹介

「ISO9001の利害関係者は顧客であるのに対し、ISO14001の利害関係者は広範多岐にわたり、環境保全という社会ニーズに応え、広く利害関係者に伝える

ためには『自己適合宣言』の方が率直であり、自己適合宣言を顧客が認めてくれない、自らでは力不足でできないとされる場合に「第三者認証」を選択するのが本来の姿であるように感じます。

「ISO14001 自己適合宣言をどのように行ったらよいか~その実務と事例(NPO 法人地球環境カレッジ)」が出版されました。筆者は小林和幸さん。冒頭は本文からの引用です。

小林さんは環境、建設コンサルティングを仕事とする「いであ(株)」主任研究員。ISO14001TC207/SC 小委員、横浜市環境 ISO 市民アドバイザーなどをつとめています。

飯田市の自己適合宣言も紹介されました

「当初からの自己決定型」(滋賀県立大学生協同組合他)、「認証登録からの移行型」(飯田市他)、「エコステージなどへ他のEMSへの移行型」など自己適合宣言に至る経過ごとに類別した事例も紹介。小林さんの勤めるいであ(株)も2004年1月に自己適合宣言。2005年度日本環境経営大賞、環境経営優秀賞を受賞した向山塗装(株)。同社も2004年7月に自己適合宣言。この会社の経過や取り組みが、具体的に紹介されています。

認証登録からの移行方法

自己宣言は、第三者による認証に比べ、取り組む組織のセルフチェックが重要です。ISO14001規格の要求事項と適合するために確認しておくチェックリストも例示されています。

移行のための手続きや、規格との適合を担保するためのしくみについても例示。透明性や客観性を担保するための監査の重要性を指摘。飯田市の相互内部監査も紹介されています。



南信州宣言も紹介されました

自己宣言だけでなく、「協力会社」「同業社」「異業社」による、グループ認証制度も紹介されています。

エコアクション21など、いわゆるオルタナティブEMS、地域ぐるみ環境ISO研究会の南信州 いむす21や、研究会が確認する自己宣言方式「南信州宣言」も紹介されています。

ISO14001自己適合宣言は1996年版規格でも適合を認める方法とされています。2004年版には「自己決定/自己宣言」「利害関係者による適合確認」「外部の人、組織による自己宣言の確認」3つの方法が示されました。しかし自己宣言についての情報、取り組み方についてまとめた試みは、これまで例がないようです。

「自己適合宣言は決して安易なものではありません。(けれども)ISO14001規格要求事項や内部監査手法を十分理解していれば難しいものではありません。地球環境問題を解決するためのしくみとして誕生したISO14001規格を広げていく。小林さんの思いの詰まった本です。

自治体を中心として自己宣言の動きが広がっています。そのための手引きとして有効な一冊になりそうです。1部750円。問い合わせ、購入申し込みはNPO法人地球環境カレッジまで。Tel/fax 03-3424-3832

e-mail emsnet@ideacon.jp

10月14日(土)、15日(日)地区の文化祭がありました。研究会の取り組みをまねてクラフト細工のコーナーを設けたところ、大盛況。実行委員の公民館役員の方々の皆さんも、最初「俺にはこういうセンスはないよ」と及び腰で



てみると皆熱中。力作が沢山生まれました。終日熱中して作品をつくり続ける子どももいました。生活と環境まつりのクラフト細工コーナー



に、ぜひ参加しませんか。

地域ぐるみISO研究会は2003年度日本環境経営大賞、地域交流賞を受賞。この大賞の審査委員長は山本良一さん。10月28日(土)午後1時30分、鼎公民館ホールで行われる講演会「気候変動+2 の世界」の講師です。危機的といわれる地球環境問題ですが、期待や可能性を持つことのできる、とても有意義なお話をしていただけそうです。不思議な縁です。多くの皆さんの参加、お待ちしております。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川川青織機) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

ic1267@city.iida.nagano.jp



再開発第2ビルが グランドオープンしました

飯田市本町、銀座、通り町一帯で進められていた再開発第2ビルが竣工。10月27日(金)にグランドオープンしました。銀座側に面した建物は1、2階が店舗、3階以上が住宅です。ラーメン店、韓国料理店やリフォーム店などおしゃれな商店街が生まれました。



中心市街地の衰退は、全国の地方都市に共通した問題です。モータリゼーションなど、郊外に進出した大型量販店にあわせたライフスタイルの定着などがその原因といわれます。

外部資本による量販店は、売れ行き次第では容易に撤退してしまいます。それに伴い周囲の住環境は劇的に変化します。その意味で、都市には時代の流れに翻弄されない、核となる街並みが必要です。持続可能な地域づくりの視点からも、中心市街地の問題は重要です。

全国各地で中心市街地の再開発は取り組まれています。飯田の場合、飯田方式ともいえるユニークな取り組みが注目されています。「中央のゼネコンや大手デベロッパーに預けず、住まい手自らの資金や知恵で再開発に取り組む」「集客のための商店街だけでなく、中心市街地に住むという提案を行う」「文化の視点を大事にする」。株式会社飯田まちづくりカンパニーが核となって様々な取り組みを進めています。

再開発地の一角には、飯田観光協会と観光課が移転。「まちなかインフォメーションセンター」も生まれました。人形アニメ「三国志」で知られる川本喜八郎人形美術館も2007年3月開館予定です。

飯田は茶の湯文化が盛んな地。和菓子のおいしい店も沢山あります。まちなか観光に訪れてみませんか。

飯田の事例も紹介 「自然エネルギー活用術」

「長野県飯田市は、日本でも指折りの日照時間の長い都市であり、...太陽光発電の普及に務めてきていた。飯田市ではさらに、市民が参加する自然エネルギーのモデルとして、おひさま進歩エネルギー有限会社が立ち上げられた...」。

「ビジネスの魅力を高める、自然エネルギー活用術～小さな会社、小さな町を元気にする素敵な方法」(1,800円、築地書館)が出版されました。著者は中島恵理さん。中島さんは元経済産業省新エネルギー対策担当。環境行政に携わる一方、週末は長野県の八ヶ岳山麓で口ハスな生活を営んでいます。

市民出資を原資とした取り組み、保育園や公民館の屋根を使ったおひさま共同発電、省エネサービス：エスコ事業、電力使用に環境価値を加えるグリーン電力証書、保育園児への環境教育活動など、飯田市の取り組みも、紹介されています。

「ものがたり、夢を売る」「消費することで環境に貢献する」「自然エネルギーの拡大を実感する」「人と人との新たな交流を生み出す」「飽きられない製品・サービスを提供する」口ハス(Lifestyle of Health And Sustainability)な消費者を獲得する秘訣です。

「温泉パワーによるエコリゾート、星野リゾート」「地熱とバイオマスでおいしいハンバーグを楽しむ、びっくりドンキー」「風力発電のライブホール、ZEPP」「グリーンな電力にこだわり販売するグリーンな雑誌、リンカンラン」「自然エネルギーにこだわった戸建て住宅の街並み～フランサ for ones～」などの自然エネルギービジネスの成功モデル。飯田の事例とともに、「琵琶湖の水質浄化運動から出発した菜の花プロジェクト」「地域の商店、農業を元気にするエコマネー、野洲市の すまいる」など、地域を元気にする仕事「コミュニティビジネス」も紹介されています。

ビジネスチャンスとしての自然エネルギーを考えると、参考になる一冊です。本についての照会は、築地書館HPまで

<http://www.tsukiji-shokan.co.jp/>



木の家に住むことの良さ 木の集いが行われます

新エネルギー、省エネルギーの時代。これからの暮らし方を考えることを目的に、「木の集い」第2回の講座が開かれます。当日は環境再生医の福島紀雄さんの講演も行われます。福島さんは、NPO法人自然環境復元協会の理事も務めています。当日は、「木の家に住むことの良さ」についてお話しいただきます。概要は以下の通り。とき：11月5日(日) 13:00～16:00 / ところ：県飯田合同庁舎3階講堂 / 内容：木造住宅の基礎知識 / 主催：飯伊地域林業活性化協議会。問合せは下伊那地方事務所環境森林チーム普及ユニット(tel 0265-53-0425)まで。

あなたも参加しませんか ガラスパワーキャンペーン

「シャワーの使用を控えめにした」「自動車を使わず移動した」「使わない電気製品の主電源を切った」「環境ボランティアの活動を行った」地球温暖化防止活動をするごとにボーナスポイントがたまり、そのポイントによって自分の牧場を育てます。



10×10ガラスパワーキャンペーンは、環境に優しい活動をすすめることで、全国の小中学校に防災用の強化ガラスの寄付を進める旭硝子の取り組みです。

まずはキャンペーンに参加登録。寄付をしたい都道府県に対し、週1回投票ができます。毎日の地球温暖化防止の活動をチェックするとボーナスポイントがもらえ、次の投票できるまでの期間が縮まります。いっしょに自分の牧場に牛や施設が育っていくのも楽しみです。あなたもキャンペーンに参加して、地元の学校に防災に貢献しませんか。詳しくは以下HP参照。

<http://www.glasspower.jp/10x10/login.com.php>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川青森機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



今年も大にぎわい!! 生活と環境まつり2006

「生活と環境まつり2006」は「私が変わる。暮らしが変わる。」をキャッチフレーズに、10月28日(土)、29日(日)県体育館、県文化センターで行われました。両日とも天候に恵まれ、2日間で5,000人(前年比1,600人増)が参加し、「暮らし」「環境」「健康」に関わる様々な学習や体験に参加しました。

親子で楽しむクラフトづくり お父さんの出番



地域ぐるみ環境ISO研究会は、今年も木の実や間伐材を材料とした「クラフト細工」のコーナーで参加。ピークには席が足りなくなり、立ったままで参加する人、翌日に改めて参加する家族などもありました。用意した木ぎれが一日目でなくなり、急ぎよ追加するといううれしい悲鳴も。



間伐材や木の実から、一人ひとりのアイデアで行うものづくり。想像力と集中力が必要です。製作中の一途な表情は、皆、素敵です。親子の共同作業もほほえましく映りました。自然にふれあう機会としても貴重です。クラフトづくりはこれからも、研究会にとって意義ある取り組みになりそうです。



「環境学習」をテーマに 飯田市環境協議会セミナー

「まずは行動すること」「数字で表すことができる効果につながると、やりがいが高まる」「家族など、仲間とともに」「人まかせでなく、自分の考えをもって進める」「楽しみながら取り組む」環境学習を進めるためのポイントです。

「生活と環境まつり2006」の一環として10月28日(土)、飯田市環境協議会セミナーが行われました。テーマは環境学習。明星保育園、座光寺小学校、自然エネルギーネット山法師からの参加者が実践を発表しました。

冒頭はコメンテーターとして参加された環境市民・代表理事、枚本育生さんのことばです。



子どもたちが変える 明星保育園の取り組み

「いらない電気は使いません。明るい電気は太陽からの贈り物。おひさまパワーで明るい毎日。みんなでなろう！さんぼちゃん」。明星保育園の皆さんが考えた「さんぼちゃんの誓い」です。



市内38か所の保育園や公民館に設置した太陽光パネルです。おひさま共同発電。さんぼちゃんは、そのマスコットキャラクターで、市内の保育園での人気は絶大です。

明星保育園では、太陽光発電を通して子どもたちに太陽の恵みやエネルギーの大切さを教えています。子どもたちは学んだことを家庭で親に伝えます。「少くらい寒いときは、暖房を使わず、重ね着をする習慣が付いてきました」「電気を消して、ろうそくの灯でお風呂に入ってみました。とてもいい雰囲気でした」。発表者の山内ひろみ先生らによる保育園での教育が、子どもを通して保護者や家庭に広がっています。

目に見える成果Kid's ISO 座光寺小学校の取り組み

Kid's ISO14001は、国際芸術技術開発機構(ArTech)が開発。子どもを対象にした環境教育プログラムです。

まず家庭内で家族と一緒に電力消費、ガス消費、水道使用量、そしてゴミ処理についての現状のデータを取り、記録します。次にどうしたら消費を減らせるか、ゴミを減らせるかを考えます。そして実行することを宣言します。実行しながらさらにデータを取り、記録します。その結果を、以前のデータと比較評価し、次の目標を考えます。PDCAのマネジメントシステムそのものです。



「こまめに電気を消している」「冷蔵庫からの出し入れは一度にまとめて行っている」「主電源を切る」小さなことの積み重ね。発表者の今村美咲さんの家庭での1週間の省エネの取り組みを、1年間に換算すると792kw、原油換算で196Lもの節約効果となりました。子どもの発信は、家族の協力が得やすい有効な方法です。

化石燃料ゼロハウス つくるところから環境学習

「土壁を塗る前に壁に作り込む細かい竹の格子『竹小舞』。土壁を塗ってしまうのが惜しいくらい美しいです。エコハウス『風の学舎』は化石燃料ゼロを目指した学習交流施設。土壁を塗る作業の参加者を募ったところ、親子や本業の左官屋さんも参加。古い技術と風力発電など新しい技術が融合した取り組みを進めています。いいた自然エネルギーネット山法師代表、中島武津雄さんの発表です。



まずは体験して実感することから。環境学習のポイントです。

2ヶ月続ければクセになる

「活動が2ヶ月続けばクセになります。保育園、小学校、高校...社会人と、学ぶことや行動につながるしくみをつくることもぜひ考えていきたいですね」枚本育生さんのまとめのことばです。子どもから大人まで、多様な発表者の事例が、いずれも充実していたため、内容の濃いセミナーでした。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川群青織機) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



モットイ・エコ・スタンダードに 研究会の活動が紹介されました

「環境ISOは確かに日本が一番... (しかし現在の) 何倍もの二酸化炭素排出対策を早急に構築しなければ...。それを回避するのは、市民社会...の主体性ある活動である。...



飯田モデルは、日本文化のボトムアップを活用した制度として他の地域にも適用できる...。日本独自のエコ・スタンダードを地域社会から発信することを提唱したい。...

放送大学大学院生、山城隆さんの論文「環境問題を考える～モットイ・エコ・スタンダードの提唱」からの引用です。山城さんはこの論文で、昭和記念財団主催、第25回昭和池田賞優秀賞を受賞しました。

論文はリオの地球環境サミットが契機となり誕生したISO14001の可能性と限界に言及。「京都議定書...によって、日本は1990年当時の二酸化炭素の排出量を6%以上減らす『義務』が生じる。現時点で...1990年を8%近くまで上回って...義務を果たすためには14%もの削減を実施する必要がある。...京都議定書は一種の国際条約だから、約束を果たさなければ違反罰則が待ち受けている。達成できなかった削減分を、目標達成できる余裕がある国から『買い受け』なければならない...これが『排出権』売買である。...達成できないであろう億トン規模の排出権は、おそらく数千億円...あるいはそれ以上になるのでは...。環境ISOの促進のみでは、京都議定書で日本が目標とした数値をクリアできない...」と、組織単独で取り組む環境ISOの限界を指摘しています。

論文では、ケニアから起こった女性たちの植林「グリーンベルト運動」の中心人物、ワンガリ・マータイ氏が、日本の「もったいない」文化の影響を受けたことも指摘。環境ISOに日本の文化を融合させることで、二酸化炭素削減に向けた取り組みの実をあげることを提唱しています。そしてそのモデルとして地域ぐるみ環境ISO研究会の取り組みに注目。冒頭に紹介した日本のエコ・スタンダードとして評価いただきました。高い評価に負けない、研究会の活動の一層のレベルアップが期待されます。

環境・女性・コミュニティ 奥谷京子さんを囲む会から

「ある運送会社の休日のボランティア。もぎ手がなくて木についたまま腐ってしまう夏みかんを旅館に運び、お風呂に浮かべたらお客さんに大変好評でした。旅館でくたびれたタオルはパン屋さんのぞうきんにリサイクル。あるところではいらなくなったものが、他の所では価値を持つ。『もったいない運送』という取り組みを始めました。私たちの周りにはもったいない余りものがたくさんあります。けれどもそれを動かす人がいません。こういう活動が広がれば、地域のちょっとした困りごとを解決します。異業種・異分野のたくさんの方の参加。これからのビジネス成功の鍵です。」

政府が「女性の再チャレンジプラン」を掲げ、女性自らが働く場をつくる起業を、積極的に応援しようと動き始めました。

メンター。開業でつまずきそうになる女性たちを実務・精神面で応援するしくみです。女性の経済自立を支援するWWB/ジャパンが開発。厚生労働省の委託事業として全国展開中。様々な分野で活躍する全国60人の学識者・起業家をメンターとして登録。その人たちが応援してくれます。

11月11日(土)午後6時「おやきと手作り品の店『和楽』」を会場に、女性の起業家・市民活動家17人が参加して、「交流会」方式の相談会が行われました。これは全国20箇所で行われるメンター交流会の一つです。講師はWWB/ジャパン代表の奥谷京子さん。

冒頭は奥谷さんが代表を務めるWWB/ジャパンの仲間が、山口県で発案した新しいビジネスです。奥谷さんは3月に行われた自然エネ省エネ起業講座の講師も務めた方です。

子育て、環境、障害者支援など、社会問題の解決と自己実現を重ねていこうという女性たちの活動が、南信州でも広がっています。けれどもその活動がボランティアから「稼ぎ」に至るまでには、高いハードルが...。活動資金である助成金の獲得も簡単ではありません。利用者や支援者の信頼や信用を得るために、任意団体から法人化をねらっているけれど、NPOと会社組織、どちらを選択するべきか。参加者から発言されたさまざまな悩みを、奥谷さんを中心に、参加者同士の意見交換を織り交ぜながら、熱心な交流が進められました。

飯田発で NPO講 を

助成金獲得の条件に、よく一定の自己資金を必要とすることがあります。その自己資金の調達が共通の悩み。起業家、市民活動家同士が資金を出し合いプールして、自己資金とする。

NPO講 を創設したらどうだろうか。そんなアイデアも生まれました。女性たちの熱い志を形に変えていく。そのための一歩になりそうな予感を感じる交流会となりました。



環境、平和がキーワード 若者たちが伝える未来社会 音楽劇「今人～イマジン」

「21世紀はもう戦争をしたくないと、21世紀の人たちは言っていたよ。21世紀は祭りの世紀だったと、22世紀の人に言ってほしいよ」。今の人たちが想像する、自分たちの住みたい世界を表現する、「万人肯定型エネルギー発信源、音楽劇 今人～イマジン」。ギター、ピアノ、バイオリン、クラリネットなど多彩な楽器、そして歌。曲の途中に詩の朗読もあり、舞台上で絵が描き続けられます。様々なアートによるコラボレーションで楽しめます。



主催は都会と飯田の若者たちを結ぶ市民活動グループ「アップルサンタ」。演ずるのはアップルサンタで活動する、関東在住のメンバーを中心とする若者たちです。若者たちの心意気を通して、未来への希望を感じてみませんか。

11月18日(土)午後2時30分開場。3時開演(4時30分終演予定)。会場は竜丘公民館ホール。参加費は1,000円(高校生以下無料)。問い合わせは代表の木下利春さん(090-3403-2361)まで。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川川青織株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



105tの削減効果 エコドライブ推進月間

10月は、エコドライブ月間。5月に続き、今年2回目の取り組みです。

ノーマイカー通勤推進月間として始まった取り組み。今年5月からはエコドライブ推進月間とし、通勤に加えてエコドライブを対象を広げました。そして今回は参加事業所の家族にも参加を呼びかけました。

「ポケットサイズのエコドライブカレンダーを携帯し、参加者に取り組みを実感してもらう」「事業所、参加者が『わか社のエコドライブ活動』『自分でできるエコドライブ活動』を提案し実践する」「取り組みを家族に広げ、わか家のエコドライブ活動を実践する」今回の取り組みの特徴です。

参加事業所は106、参加者数は9,156人。5月の月間は98事業所、6,193人。参加者数で前回は大きく上回りました。このうち地域ぐるみ環境ISO研究会31事業所からは、家族も含めて6,268人が参加しました。

削減されたCO2の推計値は105t。前回の60tを大きく上回っています。2004年に定めた飯田市の新エネルギー省エネルギー地域計画で飯田市のCO2の削減目標は66,103t。今回の取り組みを1年間続けると1,260t。削減目標の1.9%になります。

「ノーマイカーの実践(延べ40,127回)」「アイドリングストップ(58,108回)」「急加速・急発進を行わない(145,433回)」「適正速度の運転、エアコン使用を控える(14,106回)」「不要な荷物を積まない(6,696回)」など、参加事業所や参加者の創意工夫で多様なエコドライブの取り組みが進められました。



参加者にはひさかた和紙でつくった記念証、参加事業所には間伐材による記念証を納める楯が送られました。

エコドライブの取り組みが定着し、さらに省エネ型のエコライフに広がることで、地球温暖化防止の活動の輪の広がりが期待されます。

地域をあげた取り組み ひさかた和紙

「まず原料となるコウゾの束を大釜に蓋をして約2時間蒸して、幹から表皮を剥く。その表皮を水につけてふやかす、和紙の原料とするために表面の黒皮をそぎ落とす。白い繊維になったコウゾを煮て柔らかくし、綺麗な水でさらす。数日さらした後、コウゾの繊維に付着している黒皮のそぎ残しや傷を根気よく取り除く。その後、繊維を板の上にまとめ、「ペイ」という木棒でたたいて繊維を叩解する。これを水を張った「すき舟」という和紙を漉くための水槽にとけ込ませ、ここにトコロアオイの根からとった汁を加えてつなぎとする。その液を「簀桁」で均一に何回か繰り返して漉き、厚みをつける。そうして漉いた紙を重ね合わせて一晩水切りをしてから圧力をかけて水を絞り、一枚ずつに分けて乾燥させる。裁断して形を整えてようやく製品として完成する」和紙づくりには40を超える長い工程を要します。



南信州では江戸時代から明治にかけて和紙産業が発展しました。この地は全国屈指の水引産業の生産地でもあります。大相撲力士の元結いも製作しています。

その中心として和紙産業が発展したのが飯田市下久堅です。最盛期、ほとんどの世帯が和紙産業に関わり、約7割の世帯で和紙を漉いていたといわれます。けれども時代とともに和紙産業は衰退し、生業とする人は一人もいなくなりました。

1996年下久堅公民館の呼びかけで「和紙の里づくりプロジェクト」が発足。現在は「ひさかた和紙保存会」が中心となり、保存伝承の活動を進めています。特に下久堅小学校では、保存会の支援で、原料となるコウゾの栽培から、手作りのたこや卒業証書づくりを行うなど、学校をあげた総合学習のテーマとしても取り組んでいます。

和紙の原料コウゾは再生可能です。今回の参加証は、地球温暖化対策と地域づくりの象徴でもあります。

世界地方都市十字路会議 第14回は水俣市で開催

世界の地方都市が集い、まちづくりの経験と成果を交流させる「世界地方都市十字路会議」。来年2月水俣市で第14回目が開催されます。

主催は、国土交通省と水俣市。会議では開催都市が抱える地域づくりの課題をテーマとし、テーマにふさわしい国内外の都市を招聘して、事例発表やパネルディスカッションを行います。世界の地方都市が、出会い、交流する十字路としての意味があります。飯田市も第6回の開催地です。

水俣で行われる会議のテーマは「環境」。環境先進自治体である水俣の地で、食、ごみ、環境産業などについて意見を交わしてみませんか。

期日：2007年2月10日(土)11日(日)
参加費：1,000円

詳しくは大会HPを参照のこと

http://www.minamatacity.jp/related_group/zyuuziro_g/index.htm

宮本勝彬水俣市長から

平成18年度は水俣病が公式確認されてから50年の節目となります。

水俣病は産業公害であり、工場が流したごみによって汚染された魚介類を食べることによって発生しました。

水俣は生きていくうえで必要な「水」と「食べ物」がいかに大切なものであるかを知り、産業活動から出る「ごみ」は、環境を壊すものであってはならないことを知りました。

水俣市はこの水俣病の教訓を生かした「環境モデル都市づくり」に市民協働で取り組み、このような悲惨な公害をどこの地域でも引き起こしてほしくないという思いから、国内外に水俣病の教訓を発信してきました。

第14回世界地方都市十字路会議では、これらの水俣市における産業・ごみ・食、それに交流(協働・発信)というキーワードに関連した取り組みを実施している国内外の自治体・民間団体等を招き、公害の原点「水俣病」を教訓とした環境に配慮したまちづくりを紹介しながら、参加者の皆さんでこれからの環境の具体的な取り組みを考えていこうと思っています。

皆様のご参加をお待ちしております。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川研習会) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



あしたのまち くらしづくり活動賞 研究会に振興奨励賞

「地域の特色を活かした、個性豊かで、活力のあるコミュニティ(地域社会)づくり・くらしづくり・ひとづくり活動に取り組んでいる住民集団の、『食育推進』『子育て支援』『まち・くらしづくり』の活動や、『企業の地域社会貢献活動』の優れた活動を顕彰し、地域づくり活動の一層の普及・推進をめざす。(財)あしたの日本を創る協会が主催する、平成18年度あしたのまち・くらしづくり活動賞。

地域ぐるみ環境ISO研究会は、本年度、企業の地域社会貢献分野で振興奨励賞を受賞しました。今年は内閣総理大臣賞と内閣官房長官賞が各4団体、主催者賞6団体、振興奨励賞23団体が受賞。

12月4日(月)、5日(火)同協会主催の「あしたのまち・くらしづくり全国集会」が行われ、研究会を代表して三菱電機(株)中津川製作所飯田工場から白金義康工場長らが参加しました。



(財)あしたの日本を創る協会は1956年、当時の鳩山首相の提唱で、前身の新生活運動協会として発足。今年で創立50周年を迎えます。物質的な豊かさから、心の豊かさへ。地域づくりを進めるために研究や交流を進めています。

式典にあわせて「あしたのまち・くらしづくり全国フォーラム」が行われ、8つの分科会が行われました。このうち研究会が参加した「地域づくり」の分科会では、「わたしたちの思いをかなえよう!まちづくり」をテーマに意見交換が行われました。

80名が参加し、8つのグループに分かれた話し合いのキーワードは、「仕掛け」「継続」「伝承」。活動を継続することの難しさが改めて確認されました。分科会では鼎談会も行われ、作家・江戸研究家の石川英輔さんも参加。「現代に比較する江戸の暮らしと環境」をテーマに基調講演。あわせて内閣総理大臣賞受賞団体との話し合いも行われました。

環境問題を越えた広い意味でのまちづくりの取り組みとして、研究会の活動が評価されました。新たなつながりや広がりの機会となりました。

月刊地球環境で紹介 おひさま共同発電

「環境行政は長期的な視野で取り組むべきとよく言われるが、飯田市の太陽光発電事業は、それを体現した好例といえるだろう。」

日刊工業新聞社が発行する月刊地球環境 2007年1月号で、飯田市の「おひさま太陽光市民共同発電事業」が紹介されました。

公民館や保育園など、市内の公共施設の屋根に設置した太陽光発電装置で、施設に電力を供給する「共同発電事業」。商店などで省エネ診断に基づく改造を行い、初期投資費用を削減されたエネルギーコストから回収する「エコ事業」。これらの事業を進める原資の一部を全国の有志460人からあわせて2億1500万を募った取り組み「南信州おひさまファンド」。

産学官民が協働して、長いスパンで進めようという取り組みや考え方が、冒頭の評価を受けました。

さんぼちゃんエコバックは グリーン証書つき

事業を進めるおひさま進歩エネルギー(有)の昨年度の総発電量は、24万1,501kWh。CO2で約159tに換算されます。化石燃料やCO2を削減する効果を持ったこの電力の付加価値を売買するのが「グリーン電力証書」です。グリーン電力証書の認証機構による認証を受けて、各施設で自家消費された電力の95%にあたる14万1,956kWh分を、グリーン電力証書として販売しています。グリーン電力証書は、CO2削減の取り組みを進める企業、自治体や環境問題に関心を持つ市民が顧客となります。

グリーン電力証書は、証書としての取り引きの他、商品とセットで販売されています。おひさま進歩エネルギーでは「グリーン証書付き、さんぼちゃんエコバック」の販売を始めました。

1枚800円。エコバックには家庭で一日に利用する約10kWhの電力分の証書がついています。マイバックとグリーン証書。2つの意味で地球に優しい商品です。バックについての照会、注文は以下HPまで。

<http://www.ohisama-energy.co.jp/>



みんなで考えよう 災害時の支え合い

～要介護者への取り組み

今年7月の集中豪雨は、南信州でも、もう少しで大きな災害につながるところでした。大型台風が多発するなど、気候変動が気になりますが、これらも地球温暖化と無関係ではなさそうです。また、近い将来に東海地震が発生することも予知されています。

いざというときの備えは大切です。飯田ボランティア協会では、社会的な弱い立場にある要介護者の視点から、災害時の支えあいを考えるフォーラムを開催します。

とき

12月10日(日)10時～15時40分

ところ 鼎文化センター

内容

事例発表及びシンポジウム

- ・長峰夏樹さん(長野県社会福祉協議会)「平成18年7月豪雨時における各地での経験から報告」
- ・山岡幸美さん(長野県聴覚障害者協会、岡谷湊地区在住)「岡谷湊地区の土石流体験と避難所へ行ってみて・女性の立場で」
- ・有賀元栄さん(辰野町防災研究会会長)「辰野町で視覚障害の方の防災訓練した報告と豪雨災害での体験」
- ・黒田裕子さん(NPO法人阪神高齢者・障害者支援ネットワーク理事長)「阪神大震災から12年目、災害時の支えあい～要介護者へのとりくみ」。

参加費は無料で、どなたでも参加できます。お昼をはさみますが食事は参加者でご用意ください。手話や要約筆記もありません。

照会はNPO法人 飯田ボランティア協会まで(tel0265-52-9152)

レジ袋1枚あたり、おちょこ一杯、石油原料20mlが必要です。一人あたり年間300枚のレジ袋が使われているといわれます。これは1リットルのペットボトル6本分。エコバックは石油資源の節約と、ゴミの減量につながります。(さんぼちゃんエコバック、レジ袋豆知識より)

「私は、私にできることをしているだけ」(「ハチドリ計画」ハチドリのクリキンティのことばから)。小さなことでも、私たちが行動を積み重ねる。取り組みが広がることで大きな数になり、なによりも参加した一人ひとりの意識の変化が大事です。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川障害福祉) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



環境と地域へのこだわり 飯田信用金庫新本店を見学

「環境にやさしく人にやさしい、街並みにとけこむ憩いの場、それでいて先進性に富んだ存在」。飯田信用金庫新本店が、2006年9月、中心市街地の再開発地にオープン。12月15日(金)地域ぐるみ環境ISO研究会の事業所見学会が行われました。



大型郊外店の進出やモータリゼーションなどにより、地方都市の中心市街地はどこも空洞化が進んでいます。そしてその空洞化をくい止め、活性化を進めることが課題とされています。

飯田市では市民、事業者、行政が協働し、橋南地区で市街地再開発が進められています。

「交通体系を見直す」「まちの中にもう一度住むという提案を行う」「連続的な投資を呼び込めるような施策を考える」「再開発を行う」「文化という視点を取り組みの基礎に置く」。市街地商業者の若手メンバーが中心となった「21世紀背子の会」がまとめた市街地活性化の方策です。飯田市の取り組みの原点ともいえます。

飯田信用金庫新社屋は、橋南第2地区市街地再開発事業として建設されました。人形アニメ三国志などで知られる人形作家の川本喜八郎人形美術館が隣接。2階会議室は同時通訳ブースが設置、国際的な会議などにも活用できます。



タテフィン、水平ルーバーによる夏期太陽光の遮断。南北面に大幅にガラス面を設けた照明効果。明るさによって事務室の照度を自動調整する昼光システム。断熱材すべてに完全フロン材を採用するなどフロン・ハロンの排出抑制。高炉セメントなど再利用可能な資源の利用。環境に対し5,200万円を投資。池田征人専務理事から新本店建設の具体的取り組みや思いを語っていただきました。

中心市街地活性化のシンボルとして、多くの市民に親しまれる施設となることが期待されます。

参加事業所の レベルアップのために 実務者会が行われました

「地域ぐるみ環境ISO研究会は、参加事業所がレベルの高い環境改善活動を進めるためのネットワークとなることが発足当初のねらい。ISO14001の取得に向けた活動もそのための手段。改めて初心に帰った取り組みを考えたい」。9月6日(水)に行われた代表者会の発言です。12月15日(金)、事業所見学会に引き続き行われた実務者会で、研究会の今後の取り組みについて話し合いました。



まずは情報の共有から

「環境法令の管理」「廃棄物処理」「省エネの取り組み」「外部審査機関の情報」「EMSのシステム」。各事業所や実務担当者が知りたい情報の例示です。

同業・異業種31社が一堂に会するメリットを、各事業所や実務者のメリットにつなげていく。廃棄物の共同処理など事業の協働も考えられますが、まずは互いに必要な情報の共有について話し合いました。

「テーマごとの分科会を設ける」「実務者会のたびに事前にテーマを募り、話し合う」「Webを活用する(掲示板、メーリングリスト、ミクシー)」。情報を共有する方法についてアイデアを出し合いました。「研究会の実務者として顔見知りとなることで、困ったときに気楽に話し合いができる関係ができています」。研究会の存在そのものを評価する発言もありました。

共有したい情報のテーマ、そのための手段など、今回の発言を整理しながら、事務局会議で詰めていきます。

「平成19年2月20日に全面施行される長野県地球温暖化対策条例の概要」「下水道法施行令の改正による、排水中の亜鉛含有量の規制強化」「長野県における産業廃棄物の現状」など、今回の実務者会でも環境に関わる大事で最新の情報を共有することができました。

南信州いむす21の改善

南信州いむす21の改正以降、これまで26事業所の審査が行われました。新システムでの審査の経験から、新システムの検証も進行中です。

審査を通して「環境側面」という用語の理解やとらえ方が共通の課題であることが見えてきました。よりわかりやすい手引きづくりを(株)原鉄の神田知誉子さん、各事業所の「環境側面」を特定するための様式づくりを、オムロン飯田(株)の原瞳さんが中心となり進めています。

改正にあわせて「南信州いむす21の手引き」を作成、取り組み事業所のセルフチェックと審査用に使っています。このうち審査用を、専用の様式として作成することになりました。審査専用では、項目別に審査結果を「○」「×」で評価、審査で「○」や「×」に該当したときは、「是正処置要求書」を作成。是正が行われ、すべての項目が「○」となったとき、南信州広域連合に審査結果を報告します。

EMSの入り口として、取り組みやすいシステムとする。南信州いむす21も継続的改善中です。

EMSとQMSの融合 旭松食品の新たな挑戦

旭松食品(株)から田畑公靖生産担当取締役と平沢公夫飯田工場長が参加。同社の取り組みを紹介いただきました。同社は1999年飯田工場を適用範囲としたISO14001を認証取得。本年からはISO9000の取り組みを飯田本店、大阪本社、全国8営業所、同7工場、食品研究所と、全社に広げています。環境の取り組みを全社に広げるために、ISO9000の取り組みにEMSの要素を加えることとしました。あわせて、2007年2月に予定されている、飯田工場のISO14001更新審査を行わないこととしました。

ISO14001:2004規格改正の大きなねらいはEMSとQMSの両立。旭松食品のこれからの取り組みに注目です。



写真は、信金8階から眺める中心市街地と山並み

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



(株)三六組が第1号に ISO 14001南信州宣言

「当社は2002年にISO 14001を認証取得しました。しかし2005年の更新審査を受けず、当社独自で環境マネジメントシステムに取り組みました。しかし自主的な取り組みは時に、停滞やおざなりにもつながりかねず、思案していたところに南信州宣言を知りました。第1号となったことは大変光栄ですが、当社の一歩が次の宣言につながるよう、この取り組みを広げたいと思います。これからも社員一同、継続的な取り組みを進めていくことを約束します。」



12月21日(木)、株式会社三六組に対し、南信州広域連合、牧野連合長から「ISO 14001 南信州宣言 適合確認証」が手渡されました。冒頭は三六組代表取締役社長、長坂巨治さんのあいさつです。

ISO 14001南信州宣言、第1号の事業所が誕生しました。

外部組織による確認 南信州宣言

「この規格との適合を自己決定し、自己宣言する」「顧客などの組織に対して利害関係を持つものによる適合の確認を求める」「その自己宣言に対して組織外部の人・グループに確認を求める」「外部組織によりEMSの登録を求める」。ISO 14001規格には、規格との適合を示す方法が4つあります。ほとんどの組織は、の外部審査を受けています。

今年の4月、南信州いむす21のしくみを、初級、中級、上級とステップアップするように改正しました。事業所の取り組みが上級を越えたとき、そして外部審査から移行する場合、地域ぐるみ環境ISO研究会は、国際規格

ISO 14001への挑戦ができるよう、の組織外部のグループとなり、自己宣言を支えることとしました。地域ぐるみ環境ISO研究会と南信州広域連合が確認する自己宣言を「ISO 14001南信州宣言」と名づけました。

環境マネジメント審査員による審査

地域ぐるみ環境ISO研究会では、南信州いむす21と南信州宣言の審査員を、審査員の経験や資格を考慮して、段階ごとの登録制としています。南信州宣言の審査員には、環境マネジメントシステム審査員の有資格者であることを条件として、現在4人が登録されています。

審査は、第3者による審査に準じて進められました。10月19日(木)はFirst Stage。システム文書を審査し、ISO 14001と環境マニュアルとの整合を確認。そこで指摘した不適合の是正を求め、11月27日(月)にSecond Stage。冒頭にトップインタビューを行い、その後環境管理責任者、事務局、建築部、土木部、ログハウス事業部および浄化槽を監査。文書監査と現場監査を行いながら、環境マニュアルと実際の活動の整合を確認しました。



「EMSの最高責任者として社長がリーダーシップを十分に発揮し、その思いが全従業員に浸透しており、熱心な取り組みを進めています。First Stage 審査で指摘した不適合に対して的確な是正処置が行われ、環境マニュアルにもきちんとして反映されていました(審査に関わった審査員のコメント)。固定したオフィスや工場の活動と異なり、工事ごとに建設現場は変わります。地元住民との約束などの要求事項や、外部コミュニケーションにあたる苦情の対応など、会社の本来業務と環境マネジメントシステムがみごとに結びついています。」

審査員の力量と確保

審査員も、環境マネジメントシステム審査員の資格は持つもの。実際の審査は初めてです。自己宣言が自己満足に終わらないために、審査機関による審査以上の姿勢で臨もうと準備を進めました。

審査員は、自社のEMS担当実務者として、外部審査や内部監査、飯田市役所の相互内部監査の経験もっています。そして異業種の集まる研究会メンバーとして、廃棄物処理や法制度など専門的な知識・情報を入手するネットワークもっています。環境マネジメントシステム審査員としての研修や交流も今回の審査に役立ちました。

南信州宣言は、三六組に続き、この地域で多くの事業所が取り組むことで、社会的な認知も広がります。

南信州宣言に向けた審査には、事前準備から本番まで、審査員にとっても多くの時間を費やします。多くの事業所に広げるためには審査員の力量向上とともに、環境審査員有資格者の確保も必要です。

新たな南信州宣言を

三六組が自己宣言に踏み切った理由の一つは、コンサルティングや審査にかかる経費の問題。経営改善の有効な方法として見事に活かされている三六組。これまで取り組んできた環境マネジメントシステムを継続したいという思いが、南信州宣言につながりました。システム維持に係る費用の低減は、資金の地域内循環にもつながっています。

「ISO 9001の利害関係者は顧客であるのに対しISO 14001の利害関係者は多岐にわたり、環境保全という社会ニーズに応え、広く利害関係者に伝えるには『自己適合宣言』のほうが率直...」(ISO 14001をどのように行ったらよいか)地球環境カレッジ:小林和幸氏著)

三六組に続く、南信州宣言。挑戦してみませんか。



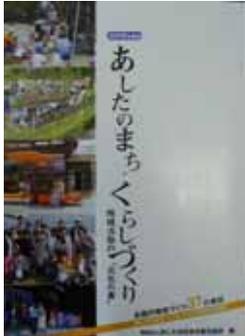
北沢環責 長坂社長

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



あしたのまち・くらしづくり 研究会の活動が紹介される

「...南信州いむす21も誕生以来足かけ6年が経過...事業所の取り組みにあわせて、初級、中級、上級...階層に分かれたシステムとする。...上級を超え、ISO 14001



の要求事項すべてを満たしたとき、地域ぐるみ環境ISO研究会と南信州広域連合が自己宣言を確認する組織となり、『ISO 14001南信州宣言』を行います。...『シンクグローバル、アクトローカル』。地球環境問題は危機的な状況を迎えています。地球規模の環境問題を解決するのも、それぞれの地域の取り組みにかかっています。異業種の企業集団...地域づくりのグループ、地域ぐるみ環境ISO研究会の挑戦は続きます」。

全国37の地域づくりの事例を紹介した事例集「あしたのまち・くらしづくり～全国の“元気の素”」に、研究会の活動が報告されました。

事例集は「食育推進活動」「子育て支援活動」「まち・くらしづくり活動」「企業の社会貢献活動」4つの部門ごとにまちづくりの取り組みを紹介しています。

企業の社会貢献部門で内閣総理大臣賞を受賞したのは秋田グリーンサムクラブ。秋田市のむつみ造園土木の社員による活動です。「一人ひとりが美しい地域づくり、心づくりに目覚める」ことを目的に、海岸林の清掃や沿道緑化活動や、講演会やコンサート、体験教育活動、ホタルの保護など多彩な活動を進めています。

同じく内閣官房長官賞はトヨタボランティアセンター。トヨタ自動車の社員有志が「良き企業市民」を目指して進める活動です。1993年に始まった活動は全国20箇所の事業所、工場にも窓口をおき、おもちゃ病院の開設、漫才、落語、手品、音楽演奏などを施設や催しで披露する「ほっとハーモニー」、災害ボランティアネットワークづくりなどに取り組んでいます。

ユニークで多彩なまちづくりの活動が満載。事例集の詳細は、以下HPを参照ください。

<http://www.ashita.or.jp/>

講師に片岡さん、飯田さん 自然エネ省エネ起業講座 参加者募集中

「ソーシャルキャピタル」とは、『市民のつながりを持ち寄り、協働が生み出す地域の豊かさ、問題解決力』である。お年寄りや障害者、子どもたち、すべての人たちが住みよい地域社会をつくるためには、行政や政治の力ではなく、ソーシャルキャピタルを豊かにしていくことこそが求められている。私はコミュニティビジネスという分野で、地域に後継者のいない事業などを買い取り、若者が経営するというスタイルをつくってきた。...行政ではコスト的に将来メンテできず、民間経営センスが求められるからだ。今年、国会を通過した公共サービス法(市場化テスト)も、それを推進しようとしている。この流れを加速するために投資することも、地域の若者が経営することも、そこにお年寄りや障害者を雇用することも、ソーシャルキャピタリストの私の仕事だ。(一新塾ニュースより)」



2007年3月16日(金)から18日(日)にかけて「自然エネルギー・省エネ起業講座」が行われます。主催はNPO法人おひさま進歩エネルギー。今年3月に続く企画です。冒頭は講師の一人、片岡勝さん(市民バンク代表)のことばです。飯田哲也さん(NPO法人環境エネルギー研究所所長)、奥谷京子さん(WWB/ジャパン代表)、など新エネルギーやコミュニティビジネス分野の国内のオピニオンリーダーが一堂に会する講座です。

今年3月に行われた講座から、GSS(グリーンサービスサイジング)ビジネスが誕生。「地球温暖化防止に貢献することを仕事としたい」「飯田に住んで仕事を始めたい」「団塊の世代としてもう一花咲かせたい」「社会貢献と自己実現が重なるような仕事をしたい」。実践的で専門家や地域とネットワークをつくる機会にもなります。ぜひ参加してみませんか。

講座についての詳細は以下HPを参照ください。

<http://www.ohisama-shinpo.or.jp/activity/seminar.htm>

<http://www.ohisama-shinpo.or.jp/activity/seminar.htm>

<http://www.ohisama-shinpo.or.jp/activity/seminar.htm>

<http://www.ohisama-shinpo.or.jp/activity/seminar.htm>

07年2月20日全面施行 県地球温暖化対策条例

06年3月30日に一部施行された長野県地球温暖化対策条例が、07年2月20日全面施行されます。12月27日(水)飯田合同庁舎で、説明会が行われました。

県、事業者、県民による

ローカルアクト

「温暖化対策を講じる各主体の責務」「事業者の排出抑制計画の作成と公表」「温暖化対策に関わる情報提供」「県民の温暖化防止に向けた取り組み」。条例の主な内容です。県、事業者、県民、滞在者及び旅行者。それぞれの主体が自主的、積極的に取り組むことが基本です。

エコドライブの推進や

公共交通機関の積極的な利用を

「自動車から公共交通機関へ、交通手段の転換」「エコドライブの推進」(県民)、「マイカー通勤の削減」(事業者)、「アイドリング・ストップ」(運転者)。CO₂排出量の1/3を占めるといわれる運輸部門で、県民、事業者が率先して取り組むことで、実効性のある地球温暖化防止対策を進めます。

駐車場利用者には

アイドリング・ストップを

駐車面積500m²、大型店舗駐車場など基準を超えた駐車場では、利用者に対しアイドリング・ストップの呼びかけが必要。「自動車を販売する際の環境情報の提供」(自動車販売業者)、「エアコン、テレビ、冷蔵庫への省エネラベルの表示」(電気製品販売事業者)も必要です。原油換算1,500kl/年以上のエネルギーを使用する事業者は、「排出抑制計画」の作成と結果を公表するなど、一定規模の事業所の責務も定められました。

おりしも暖冬、温暖化が私たちの暮らしにも様々な影響を与えています。県民として、事業者として、社員として、条例の施行を機会に、温暖化防止にむけた取り組みの一層の広がりが期待されます。

条例の詳細や具体的な取り組みについては以下HPを参照ください。

<http://www.pref.nagano.jp/seikan/kankyosho/ondan/jourei/>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshivuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



自己適合宣言外部検証の日 西寺多治見市長を迎えて

「...これまで環境政策に取り組んできましたが、他の自治体と異なる取り組みは、すべての事業を環境の側面からチェックすることをルール化したことです。財政課と企画課によるヒアリングに環境課も同席して、事務事業の環境への影響を事前にチェックしています。...ISO 14001の認証を受けたとき、このISOの考え方は行政すべての分野に採用できるシステムだと考え、職員に言い続けています。ISOはPDCAの過程を、目的を高めつつ螺旋状に質を高めていく手法です。これからの行政は環境行政ばかりではなく、施策全般に渡ってISOと同じ考え方で仕事を管理していくことが必要です。...(広報多治見02年1月号)」



冒頭は、広報多治見に掲載された西寺雅也多治見市長のことばです。環境課が担当する環境政策から、自治体の政策全体に環境視点を持って臨むことが必要という問題提起です。

西寺市長は95年の就任以降、様々な分野で自治体改革の先達として活躍されています。そして、03年の環境首都コンテストで多治見市は、第一位となりました。

「...多治見市では、外からの人たちを呼び込み、観光や多文化交流などを起こしていく『ビジターズ産業おこし』を新しい産業ととらえて取り組んでいます。都市間交流を進めるため...毎月第4土曜日の朝には、フリーマーケットを開催、市の職員が店を出して打っているそば、和紙、おもち、駄菓子、富有柿などはお付き合いの始まった自治体の特産品です。...(広報多治見97年7月号)。職員の率先した取り組みも光ります。

多治見市は人口11万7千人の都市で、人口規模だけでなく、飯田市との共通点が多い自治体です。

1月22日(月)午後6時から、飯田市役所3階大会議室で「挑戦！環境首都への道～西寺雅也多治見市長を迎えて」を行います。環境市民・代表、枚本(すぎもと)育生さんをコーディネータに迎え、西寺市長の話題提供に対して、牧野光朗飯田市長が応える形でトップ対談を行います。

コーディネータは 環境市民枚本育生さん

「人が基礎」「パートナーシップ、住民参画」「環境と福祉と社会的公正」「行政の総合化」「ビジョンとアジェンダ21」「誰にでもわかる、先進事例を」枚本さんが示す、持続可能な地域をつくる6つの条件です。



01年に「日本のフライブルクをつくらう」を合い言葉に始まった環境首都コンテスト。環境市民はコンテストを主催するNGOの中心です。ドイツで始まったこのコンテストは、環境NGOが自治体の取組みを評価するものの特徴です。06年のコンテストにエントリーするための回答表は全体で170ページ。この回答表は、環境NGOからの政策提案書でもあります。環境首都コンテストは、参加する自治体の環境への取組みを評価するだけでなく、コンテストに参加した自治体同士の交流や切磋琢磨にもつながっています。

枚本さんは世界や国内で環境の取組みに熱心な自治体を多く歩き、市民参画で進める環境改善行動のコーディネータを数多く手がけています。昨年11月にもドイツを訪問されました。ドイツや国内自治体の、最新の環境の取組みを織り交ぜながら対談のコーディネータを務めていただきます。

統合的アプローチ 飯田の取組みとつなげる

「私たちを取り巻く環境変化を踏まえながら、...職員一人ひとりの仕事内容の質的变化を求めます。『変化に対応できるスピード感覚』『対症療法からの脱却』



『統合的アプローチを目指すこと』縦割り行政と決別し、地域政策の立案主体として地域の皆さんと協働して政策の遂行にあたってほしい。牧野市長が年頭のあいさつで取り上げた「統合的アプローチ」と共通した問題意識を持つ西寺市長、枚本さんとの対談を通し、環境首都を目指す飯田市のこれからを考える機会としてみませんか。

どなたでも参加できます。参加申込み、お問合わせは飯田市役所環境課(0265-22-4511内線5245)まで。

新世代のクマの出現 クマとの共存とは？

「...農山村の少子化・過疎化で放置された畑がどんどん増え、林業も人手不足で集落周辺の枝打ちもしない、藪も刈らないし...今は年寄りばかりひっそり暮らしている状況です。そのためにクマが集落の近くに入り込んできても、住民は気づかない。...メスは特に子どもがいっしょの時はあまり大きく動き回りません。結果的に過疎化した農山村のすぐ近くに居着いて、子どもを産む。そうやって世代を重ねていくと、もう本来の生息地を知らないクマが誕生してしまう。...『新世代のクマ』の登場です...」



農山村にクマが出没、被害が多発し、人命に関わる事故も起きています。長野県は全国で最も被害の多い県です。

「...クマ本来の生息地が徹底的に壊されたこと...一番重要な食べ物としているドングリの生る落葉広葉樹が切り払われ、成長の早い針葉樹が植林されてきた結果です。落葉広葉樹の林は春先、葉っぱのない明るい林床に植物がたくさん出て、クマはそれを食べます。しかしスギの林だったら、春から林床が真っ暗、そういうところに春植物は出ません。...」クマが農山村に出没するようになった一番の原因です。季刊紙たあくらたあ06年11月号特集「クマとの共存は可能か？」からの引用です。

人間による山の生態系の激変が、人里近くに住む新世代のクマを生んでしまったようです。ドングリなどクマのえさを育てるだけでなく、クマと人との新たな共生のあり方を考えて、クマの暮らしを山に戻す「学習放獣」を行うなど、多様な取り組みが必要です。「森と山の荒廃の問題」「クマの野生を守る」「密漁や過剰捕獲」「子どもたちへのクマとの共生学習」など、特集では、クマ問題を入り口とした人と自然との共生のありかたを、様々な角度からの問題提起が行われています。

記事及びたあくらたあについての照会は、青人社(090-9144-9858

e-mail noike@grn.janis.or.jp)まで。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



事業所の取り組みを改善 悩み事相談会スタート

1月23日(火)午後1時30分から、オムロン飯田(株)第1工場会議室で、第1回「悩み事相談会」(仮称)を行います。

「同業・異業種31社が一堂に会するメリットを、各事業所や実務者のメリットにつなげていく」。昨年9月6日(水)の代表者会の発言を受け、12月15日(金)実務者会、1月9日(火)事務局会議で具体的な方策を話し合いました。悩み事相談会は、具体化の一步です。

第1回のテーマは「ISO 14001のシステム」です。

「(全体)システムが全体的に重たい。簡略化できるところがあるか」。「(4.3.1)環境影響評価の手法:スコアリング法を用いているが、自社に合った別の方法があるのではないか」。「(4.4.2)教育訓練『力量を持つ事を確実にする』手法」。「(4.5.2)『その他の要求事項』の順守評価の方法」。「(4.5.5)内部監査の手法:ISO 14001への適合を内部監査する手法(チェックリストを用いているが、内容が記録の確認になってしまっている。内部監査でしか見つけられないような指摘が自然と出されるような手法とは)」。業種を越えた共通の悩みです。

参加対象は事業所の環境事務局、同じ悩みを持つ担当者、これらテーマに関心や情報のある方などです。会場や資料の準備の都合から、参加希望者は17日(水)までに申し込みが必要です。

参加される皆さんは当日、上記の悩みに関わる自社の取り組みを、紙資料で当日持参いただくか、電子データで事務局まで事前にお送りください。

「廃棄物管理の方法」「省エネの取り組み」「外部審査機関の情報」など、各事業所や実務者としての悩み、ぜひお知らせください。

悩み事相談所は、随時開催します。また、相談会の内容は記録を残し、研究会全体で共有することとします。

事業所の取り組みのレベルアップに向けた、研究会の活動の新しい1歩が始まりました。



南アルプス北岳を中心に

京都議定書発効記念 2月16日は一斉行動の日

1月9日(火)の事務局会議では、京都議定書の発効を記念した、2月16日の具体的な取り組みについても話し合われました。

2005年2月16日の京都議定書の発効当日は、萩本範文代表の呼びかけ文をぐるみ通信100号で配信。朝礼などでの読み合わせに、5,372人が参加しました。

2006年2月16日は、「京都議定書発効1周年～みんなで取り組もう、地球温暖化防止アンケート」を実施。インターネットを使った試みに607人が参加、参加者全体のアンケート集計結果で166 tのCO₂削減効果につながりました。

我が国の地球温暖化ガスの削減実績は、1990年比で、2002年現在+8%。イギリス 15%、ドイツ 19%と比べて大きな開きがあります。残り少ない目標年次に向けて、市民、企業、政府・自治体、をあげた強力な取り組みが必要で。

今年2月16日(金)も研究会一斉の取り組みを計画中です。取り組み内容、方法は近日中にお知らせします。多くの皆さんの参加を期待します。



各国の署名・批准の状況を示した図

- ：署名・批准済みの国
- ：署名したが批准を保留中の国
- ：署名したが批准を拒否している国
- ：態度未定

(*ウィキペディアより)

3月15日(木)は代表者会 下農生徒の発表も

研究会代表者会の日程も確定。3月15日(木)午前10時から、飯田環境技術開発センターで行います。

研究会の組織強化に向けた体制などの論議を予定しています。

また代表者会の場で、下伊那農業高校で環境科学基礎を学ぶグループによる研究発表も予定しています。テーマは「土地利用から探る私たちの未来～長野県飯田市県地区の土地利用と温度環境」です。代表者の日程調整をお願いいたします。

独エッカーンフェルデ市 パクシース氏講演会

「環境との共生」「経済・雇用の確保」「福祉・社会保障など社会的公正の実現」。持続可能な地域社会をつくるキーワードです。ドイツエッカーンフェルデ市は、ドイツ北部、デンマークとの国境に近いバルト海に面した人口23,000人の都市です。



同市は環境、経済、社会的公正の取り組みを市民参画で推進し、環境首都と呼ぶにふさわしいまちづくりを進めています。人間中心の交通政策、環境産業の育成、自然・景観を大切にされた都市計画、自然復元、体験を重視した環境教育...誰もが住みつけたいと思う「住むに値するまち」を実現させてきました。

1994年にはドイツの「環境首都」に選出。エッカーンフェルデ市のミヒャエル・パクシース氏。エッカーンフェルデ市自然保護・景観保全課長。同市が環境首都に選定される大きな理由となったエコシティづくりの取り組みの中心人物です。また環境や自治体の仕事をわかりやすく歌で表現する「市民デュオ」を結成、CDも出すなど活躍中！です。

2月13日(火)午後6時30分から池坊短期大学(京都)を会場に、パクシース氏を迎えた講演会を行います。テーマは「京都議定書第1約束期間まであと1年～環境・経済・社会的公正が共生する、持続的な地域社会を描く」。

パクシース氏によるエッカーンフェルデ市の具体的な取り組みとともに、ドイツや日本の先進的な自治体の取り組みも紹介されます。

主催は環境市民。参加についての詳細は、以下環境市民HP参照。

<http://www.kankyoshimin.org/jp/hotnews/ecocity-coen.html>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



ぐるみ通信 200 号に 寄せて



地域ぐるみ環境 ISO 研究会
代表 萩本 範文

「ぐるみ通信」第200号を発行できますことを本当に嬉しく、読者の皆さま、応援してくれた皆さま、制作に当たってくれた皆さまに深く感謝します。「ぐるみ通信」は、2001年2月の創刊以来、199号を地域内外の多くの皆さまに発信してきましたが、この間、地球環境は、集中豪雨・竜巻発生などの異常気象、石油価格の高騰・天然資源争奪に見られる資源問題など深刻な課題を抱えるようになりました。

1997年秋、飯田市役所を含めた6事業所で発足した「地域ぐるみでISOへ挑戦しよう研究会」は、その後「地域ぐるみ環境ISO研究会」に名称を改めましたが、その活動も丸9年を経過し、10年目を迎えます。私たちの研究会は、「地域の自然を残し、持続可能な地域づくりのため、新しい環境改善の地域文化を創造する」ことを活動理念とし、ISO14001の認証取得並びに維持のためのノウハウの共有・支援 事業所内の環境改善活動を通じて、従業員・職員意識を市民意識まで高める 飯田版ISOの構築と、

小規模・個人事業所への環境改善プログラムの提供並びに支援活動 飯田市の展開する環境行政へのサポート、を活動としてきました。

そして、先進事業所の見学、地域版環境保全システム「南信州いむす21」の構築・支援、相互内部環境監査、セミナーの開催、エコドライブ推進月間の取組み、里山保全作業への参加、各種イベントへの参加、京都議定書のぐるみ啓蒙活動など多くの活動に取り組みました。

「南信州いむす21」で認証した事業所は、中級：3件、初級：22件、従来レベル：26件となり、更にISO14001南信州宣言認証登録事業所も誕生し、私たちの仕掛けた環境改善運動は、次第に地域に根付き、南信州の環境文化として定着してきました。また、幼稚園、小学校、中学校、そして高校へと、環境取り組みの輪は次の時代を担う人たちにも広がりを見せ、多くの来訪者/視察者の訪問が後を絶たず、環境をキーワードにした「地域ぐるみの活動」、「人が訪れる地域」になって参りました。

「環境課題の取り組みは、点でなく面でやるべき地域活動。一事業者がそのサイト内で取り組んでも、環境問題の解決にはならない。地域の事業所や自治体はその枠を超え、連携して“ぐるみ運動”を展開してこそ、地域の環境改善がレベルアップする。環境ISOの考え方が家庭にまで伝われば、その取り組みは万を超える草の根運動になる。そして、環境意識の高い街として全国にアピールすることができれば、人やモノをこの谷に呼び、地域の活性化にもつながる」こうした論議から生まれた研究会の目標はいま実現に近付いているのです。また、こうした活動は様々の皆さま

から評価をいただき、多くの賞も授与されました。しかし、これは実績や成果に対する評価ではなく、地域でモデル作りに取り組んでいる研究会へのエールであり、「頑張ってください賞」だったと思っています。

ところで振り返ってみますと、研究会を立ち上げた1997年はちょうど地球温暖化防止京都会議(通称COP3)が開かれた年で、世界中の人が環境問題を人類存続の最重要課題と認識した年でもありました。そして、そのとき議決された京都議定書は、後に環境保全の指針となりました。その意味で同じ年に生まれた私たちの運動は先進的なものでした。また、トヨタ自動車はハイブリットカーという画期的な車を開発し、従来の車とは全く違う概念の環境に優しい車を作りました。ハイブリットの代名詞にもなったその「プリウス」は、何と1997年の秋、即ち京都会議に合わせて生まれたのです。

生物の世界で人間だけが神様から高い知恵を授けられました。その結果人間は便利を追い続けることを覚え、地球を汚すことになってしまったのです。しかし、それなら人間はもっともっと授かった知恵を駆使し、地球がきれいになる技術を開発しなければなりません。そのハードルは高いと思いますが、走れば走る程、地球をきれいにする車を開発して欲しいと思っています。

私たち「地域ぐるみ環境ISO研究会」は、これからも地域の環境を見つめ、情報発信を続けていきます。皆さまの応援をぜひお願いいたします。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp